

平成24年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	いじめ・不登校対策事業						担当部	教育委員会事務局			
	会計区分	一般会計			事業類型	一般		担当課	学校教育課			
	事業期間	平成12年度以前			～	平成30年度以降		担当係	学校教育係			
	総合計画 分野別計画	主目的	4 教育文化		16 学校教育		3 いじめ・不登校を防止する					
		副目的										
	予算区分	款	10		項	1	目	3	大	4	中	1
	根拠法令・個別計画	小牧市適応指導教室「カルミア」事業実施要項、小牧市適応指導教室「アイトワ」事業実施要項、学校カウンセラー派遣事業実施要項、不登校児童生徒訪問指導員派遣事業実施要項										
	実施・運営方法 ※費用合計に占める 経費の内訳(割合)	直接実施・ 運営	99 %			委託	1 %		助成	0 %		
	目的 (対象をどの様な 状態にするのか)	不登校児童生徒を苦しみから救うとともに、学校復帰のエネルギーを養うための支援を行い、学校生活への適応を図る。また、新たな不登校を生まないように、すべての児童生徒が充実した学校生活を送ることができるようにする。										
	内容 (手段)	<p>(平成23年度実施内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>適応指導教室(2箇所「カルミア」「アイトワ」)の運営 何らかの心理的・情緒的な要因により学校に登校しない児童生徒、あるいは登校したくてもできない状態にある児童生徒を対象に、学校復帰に向けた、適切な指導・支援を行った。</li> <li>学校カウンセラーの派遣 小中学校の教員、保護者、児童生徒を対象に、学校カウンセラーを派遣し相談業務をおこない、いじめや不登校などについて、専門的な立場から適切な指導助言を行った。</li> <li>不登校児童生徒訪問指導員の派遣 学校と連携を図りながら不登校児童生徒の自宅を訪問し、指導や保護者との面談をおこなった。</li> <li>心の教室相談員の配置 児童生徒が悩み等を気軽に話し、ストレスを和らげることのできる第三者的な存在である「心の教室相談員」を各小中学校に配置し、心を支える環境の整備を行った。(報償費:17,299千円)</li> </ul> <p>いじめ・不登校対策事業 不登校の原因や背景を理解し、関係機関等の連携のもとに組織的に対応することの重要性とその対応の在り方について、理解を深める。業務を、小牧市いじめ不登校対策連絡会へ委託し、いじめ・不登校対策関係機関会議、いじめ・不登校対策連絡会、適応指導教室・担任連絡会、講演会、研修等を行った。(委託料:270千円)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>適応指導教室連絡協議会への参加 全国適応指導教室連絡協議会、愛知県適応指導教室連絡協議会に参加し、日々対応に苦慮している指導方法や問題解決の参考とした。(負担金:10千円)</li> </ul> <p>○平成24年度実施内容 平成23年度と同様の内容で実施。</p>										
受益者負担	無											

		単位	H21決算額	H22決算額	H23決算額	H24予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	19,459	19,485	18,923	19,056	
		正職員	従事者数	人	0.49	0.49	0.49	0.49
			人件費	千円	2,606	2,606	2,606	2,606
		その他職員	従事者数	人	4.50	4.40	4.40	4.40
			人件費	千円	27,912	26,744	27,248	29,301
		費用合計	千円	49,977	48,835	48,777	50,963	
	対前年比	%		97.7	99.8	104.4		
財源	一般財源	千円	49,977	48,835	48,777	50,963		
	国・県支出金	千円	0	0	0	0		
	その他財源	千円	0	0	0	0		

業	活動指標名	単位		H21	H22	H23	H24
	カルミア・アイトワ入室児童生徒数	人	目標		—	—	—
実績				30	35	39	
不登校児童生徒訪問回数	回	目標		—	—	—	—
		実績		126	143	105	
績	成果指標名	単位		H21	H22	H23	H24
			目標		—	—	—
本市不登校発生率	%	目標		—	—	—	—
		実績		1.48	1.65	1.79	
不登校者のうち、良い変化のあった者の割合	%	目標		50	50	50	55
		実績		46.8	41.1	53.1	

事業の自己評価	平成23年度の実施結果	事業の達成状況	本事業の一つである適応指導教室の入室者が増加しており、学校復帰への支援の場として有効に活用されている。学校カウンセラー・心の教室相談員による相談活動や不登校児童生徒訪問指導員による家庭訪問など学校復帰に向けた支援活動を行うことができた。その結果、学校復帰ができたり、生活改善が図られるなど、良い方向へ変化したりしている児童生徒の割合は増加した。しかし、不登校児童生徒数および不登校発生率は前年度に比べ増加して、新たな不登校が出ているのも現状である。
	事業実施における課題等	適応指導教室への入室者が年々増加し、児童生徒との個別対応をするためには、現在の指導員(カルミア4名、アイトワ1名)の人数では対応も難しくなっている。アイトワでは、ボランティアの協力も得ているが、高齢化しており新たな人員確保が必要である。学校現場においても、別室登校する児童生徒数も年々増加しており、心の教室相談員やスクールサポーター、教職員で対応しているが、厳しい状況がある。	
	事業を縮小・廃止したときの影響	不登校児童生徒の学校復帰の機会が奪われるとともに、学校以外で教育を受ける機会も奪われる。	
今後の事業の方向性	方向性の判定	拡充	
	判定理由	不登校発生を抑制するために、不登校児童生徒の学校復帰に向けての支援活動や学校カウンセラーによる、児童生徒・保護者へのカウンセリング、心の安定をはかる心の教室相談員の支援を充実させながら進めていく必要があるため。	
	改善案等	適応指導教室の指導員を充実させるとともに、学校との連携を密にしながら学校復帰に向けた支援活動に取り組んでいきたい。学校カウンセラーや心の教室相談員が、さらに児童生徒との関わりを深めるとともに、学校間での情報交換の場を設けていきたい。	

二次評価	方向性の判定	判定理由
	現状維持	いじめ・不登校対策については、非常に重要な事業であると認識しているが、不登校対策の学校カウンセラー、心の教室相談員等については、現状の規模で、成果指標の「不登校者のうち、良い変化のあった者の割合」が、近隣市と比較しても良い結果となっている。このため、現段階では現状維持とし、予算規模の拡大ではなく、各取組の内容や質の充実を努めるとともに、より良い方策があった場合は、拡充を検討するものとする。